

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校 開校準備委員会通信

本通信は、3か月に1回の開催を予定している開校準備委員会本部会の開催後に、開校準備委員会の各ワーキンググループの意見交換を含めながら、本部会の意見交換の状況についてまとめて発行したものです。

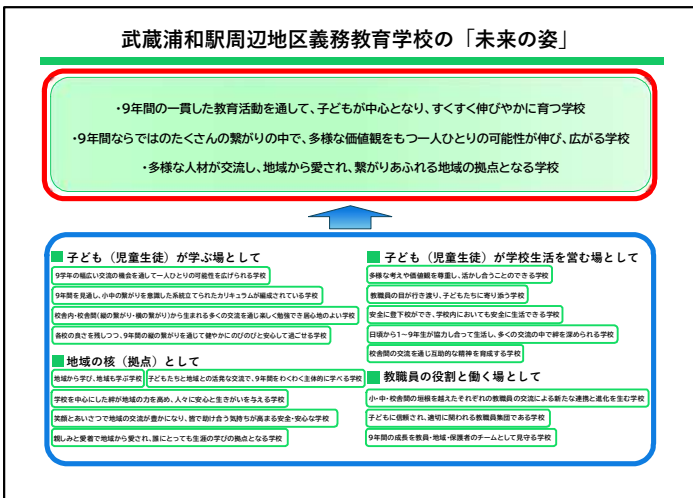
1 開校準備委員会本部会（第5回）の会議概要

- 日時 令和7年10月30日（木）17:30～19:45
- 場所 武蔵浦和コミュニティセンター 第8・9集会室
- 次第 教育長挨拶
 1. 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」について
 2. 各ワーキンググループからの報告
 - (1) 給食室運営より（今後の見通しについて）
 - (2) 学校地域協働より（関係団体のあり方について）
 - (3) カリキュラムより（制服・金管バンドについて）
 - (4) 校名・移行イベントより（開校式、校歌・校章について）
 3. 令和8・9年度開校準備委員会組織と参加者構成(案)について
 4. 意見交換（校名の絞り込みについて）
 5. その他



- 第5回本部会では、本部会に初めて報告するワーキンググループ三つを含め、四つのワーキンググループからの報告を行いました。
- それぞれのワーキンググループの報告内容に対して、参加者の皆様から、活発な意見交換をいただきました。
- 校名の絞り込みについては、次回1月に行われる予定の第6回本部会にて、引き続き行います。

2 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」について



- 第4回本部会で行った意見交換において、三つのグループがまとめた「特に大切だと思うもの」や「今後残していきたいもの」をもとに集約した「未来の姿」の柱を報告しました（左図赤枠内）。
- 「未来の姿」アンケートの分析を基に分類されたものをもとに本部会で意見交換を行って整理した『四つの視点に分けた「未来の姿」』（左図青枠内）と合わせて、『武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」』として本部会全体で共有しました。
- 今後、開校準備委員会の本部会や、各ワーキンググループで行う意見交換の際に、意見交換するテーマや内容に合わせて、「未来の姿」の柱や、『四つの視点に分けた「未来の姿」』を柔軟に活用し、拠り所としていきます。
- 併せて、教育委員会事務局で調査研究を行う際にも同様に「未来の姿」を活用していきます。

3 各ワーキンググループについての活動報告

(1) 給食室運営より（今後の見通しについて）

○昨年度と合わせてこれまで3回のワーキンググループを開催し、意見交換を行ってきた以下の内容について報告しました。

＜ワーキンググループにおける主な意見交換＞

- ・小学校と中学校では、1日に作る給食の栄養価や分量などが大きく異なるため、別々の調理工程となる。
特に5～9年生が通う新設沼影校舎では、食数も相当数あることから5～6年生分を作った後に7～9年生分を作る、といった調理工程にする必要があるのではないか。
⇒ 前期課程（1～6年生）と後期課程（7～9年生）で、提供時間に20～25分程度の差を設ける方向性で進める。
- ・給食の提供回数については、行事等の都合から考えても、前期課程（1～6年生）は小学校と、後期課程（7～9年生）は中学校と回数を合わせるのが適切ではないか。
- ・新設沼影校舎、内谷校舎、浦和大里校舎の献立について、一つの学校として9年間の連続性に配慮した教育活動を行ううえで、統一の献立を実施することが望ましいと考える。
⇒ 安心・安全な給食を提供する運用面からみても、毎日統一献立で実施する方向性で進める。
今後のワーキンググループで、毎日統一献立が可能かどうかを調査・研究していく。

(2) 学校地域協働より（関係団体のあり方について）

○昨年度と合わせてこれまで3回のワーキンググループで行ってきた、三つの学校が一つに統合して開校する上で、各関係団体が現在の活動を円滑に継続できるようにするための課題や懸念事項を洗い出す意見交換の内容について報告しました。

<ワーキンググループにおける主な意見交換>

- ・学校運営協議会については、義務教育学校としては一つ設置するが、その委員も所属する、三つの校舎それぞれで活動する組織を設けるのはどうか。校舎ごとの組織での会議内容を、全体の学校運営協議会へ提供することなどにより、実効的な組織体制になると思う。
- ・PTAについても同様に、義務教育学校全体に一つの組織を設置するが、校舎ごとに実働できる組織を設けるのはどうか。
- ・完全ボランティア制への移行やデジタル化など、この機会にPTA活動のあり方についてよりよい活動とするための準備を進めたい。
- ・チャレンジスクールについても、実行委員会の本部は学校に一つ設置し、校舎ごとの分科会を設けるのはどうか。
- ・現在小学校で行っている体験活動を中学生段階の7～9年生に導入したり、現在中学校で行っている学習活動を5～6年生で選択できるようにしたりといった工夫の導入の機会になるのではないかと。
- ・スクールサポートネットワークについては、沼影小学校、浦和大里小学校、内谷中学校それぞれの協議会を各校舎の協議会として継続させたいと、各校舎の状況を共有する会を設けるのはどうか。

(3) カリキュラムより（制服・金管バンドについて）

○今年度に行った、2回のワーキンググループでの意見交換の内容について報告しました。

<ワーキンググループにおける主な意見交換>

- ・制服については、「制服の多様性」や「熱中症事故防止」など、様々な観点から、他自治体の様々な先行事例を材料として、制服を作る、作らないことのそれぞれのよさや課題を含めた意見交換を行った。
⇒以下の方向性で事務局と学校が関わりながら検討していく。
 1. 今の制服の状況について、中学生から小学生へ情報を提供する。
 2. 義務教育学校に通う予定の子どもや保護者から広く意見を聴く。
 3. 制服の有無について検討する。
 4. 制服有りの場合はデザインや価格、着用場面などを、また、無しの場合は私服の基準等を検討する。
- ・金管バンドのあり方については、4年生と5～6年生の校舎が離れていることで生じる課題や、中学校の吹奏楽部との関係性を考慮する必要があるという参加者からの意見をもとに、「校舎や発達段階の垣根を越えた緩やかなつながりを築く『金管バンド』」を目指して意見交換を行った。
⇒入部は5年生からとした上で、7～9年生との活動機会や、4年生以下が参加しやすい演奏会や交流会などを企画するという方向性のもと、開校に向けて準備を進めていく。

(4) 校名・移行イベントより（開校式、校歌・校章について）

○今年度に行った、4回の実施した意見交換の内容について報告しました。

<ワーキンググループにおける主な意見交換>

- ・校章と校歌については、いずれも本市立学校の先行事例と同じように、開校後に児童生徒が主体となって募集を行って決定していくという方向性に賛同いただいた。
- ・移行イベントとして、閉校式は各学校で行うものとして整理するとともに、開校式については、オンライン中継を用いて三つの校舎で同時に実施するという方向性に賛同いただいた。

【学識経験者からのコメント（概要）】

- 教育とは、子どもたちが学ぶ中で価値を見つける過程であるため、教育内容の決定の際には、常に「価値について」の議論が伴うものです。本日の参加者の皆様からたくさんいただいた意見もやはり、様々な価値観、思いや願いが反映されたものでした。
- 本日提示された、前回皆様が話し合ってきた「未来の姿」の3つの柱についても、この3つの中にも異なる価値観が反映されています。例えば制服については、「9年間の一貫した教育活動」を大事にすると9年間制服をそろえた方が一体感が出る一方で、「多様な価値観をもつ一人ひとり」を大事にすると、私服を選んだ方がよいということになるかもしれません。
- 様々な価値のぶつかり合いが起こる意見交換を各ワーキンググループで行う際に、この「未来の姿」を活用し、その意見交換の内容について本部会で意見交換を行う中で、「未来の姿」の3つの柱の意味が共有されます。こうした、何を大事にして学校づくりを行うかについての思いや願いが練り上げられていくことで、よい学校づくりに繋がると思います。
- 校名についても、学校の理念や方向性を象徴するものです。次回1月の本部会でいう絞り込みにおいて、どのような思いや願いを込めるかを意見交換して、まとまっていくことを期待しています。

